

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 27 日現在

機関番号：18001

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370170

研究課題名(和文) 沖縄の文化表象にみるジュリ(遊女)の諸相

研究課題名(英文) The various aspects of the Juri (courtesan) in the cultural representation of Okinawa

研究代表者

与那覇 晶子 (Yonaha, Shoko)

琉球大学・学内共同利用施設等・その他

研究者番号：30412860

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、1672年から1944年まで272年間、沖縄に実在した遊廓、そしてジュリ(遊女)の文化表象を検証した。ジェンダーの視点で見ると、まず近世に於いて遊廓&ジュリの芸能が祭祀芸能、宮廷芸能に並び第三極をなし、1879年、日本に併合されて以降の近代に於いてジュリのプロの芸能者として位置づけはさらに明瞭になった。近世から近代まで琉歌、琉球舞踊、琉球歌劇、絵画、写真、詩・小説に少なからず表出されてきたジュリは、沖縄独自の美意識やアイデンティティの象徴になっている。1945年以降、遊廓消滅と共にジュリはもはや存在しないが、現在尚表象される客体でありつづける。

研究成果の概要(英文)：This research has reviewed the cultural representation of Okinawan pleasure quarters and juri (courtesans/prostitutes) for 272 years from 1672 to 1944. Although this topic has never been discussed from the viewpoint of gender, this research will demonstrate that juri entertainments played a significant role, along with ritual performances and the court theatre, in the pre-modern Ryukyu kingdom. After Okinawa's annexation by Japan in 1879, juri's position became established as professional entertainers. Juri, who've been frequently represented in Ryu-ka (Ryukyu poems contain four lines of 8-8-8-6 syllables), Ryukyu dancing, Ryukyu opera, paintings, photographs, novels, and other forms of poetry from modern times to the contemporary era, are a symbol of an aesthetic sense unique to Okinawa. Although juri no longer exist because of the disappearance of pleasure quarters in 1945, they continue being the object of artistic representation.

研究分野：比較演劇、表象文化、ジェンダー学

 キーワード：沖縄の文化表象 ジュリ (尾類・遊女) 遊廓 沖縄芸能 沖縄文学 ジェンダー&セクシュアリティ
 イ Hetaira (ヘタイラ) 異文化接触

1. 研究開始当初の背景

(1) ジュリ(遊女)を意識的に対象化し向き合ったのは10年以上前に遡る。2004年、トヨタ財団から1年間助成を得たことが、沖縄の遊廓やジュリに向き合う最初のきっかけになった。「尾類の沖縄芸能の中での位置づけとその表象の研究『沖縄芝居』を中心に」がその時の研究テーマである。研究の社会への還元の一環として2005年9月首里公民館で「辻文化再考フォーラム：芸能から見る辻文化」を開催した。登壇者は辻新思会理事長・上江洲安明、春駒・門付芸能研究会「劇団ゆにおん」座長浅香怜子、那覇市文化協会事務局長・佐藤善五郎と筆者である。120人が参加した。筆者は研究成果の一部を「芸能から見る辻文化 - 沖縄芝居の背景」として2007年5月、第346回『沖縄藝能史研究会会報』にまとめた。浅香は博士論文『じゅり馬と辻村女の里(チージ)の研究』を2011年に上梓した。

(2) ジュリの研究は、21世紀に入って新たな対象化が始まったばかりである。これまで琉球芸能の分野でほとんど遊廓やジュリは取り上げられてこなかった。従来、芸能史の中で疎外されてきたと言える。しかし大野道雄が明治31年から第二次世界大戦開戦間際まで網羅した芸能関連新聞資料集成を基に、近代沖縄で芸能に従事した女性たちが修士論文で取り上げられるようになった。例えば生垣美羽の「芸能と共に生きた女性たち 近代沖縄における演劇界にて」(『琉球アジア社会文化研究』第12号、2009年)などがある。

(3) その後京都産業大学教授鈴木雅恵と共同で「世界の中の沖縄演劇 女優の表象を中心とした考察」(科研番号18520280)の課題に二カ年間取り組む機会を得て、2008年、『『八月十五夜の茶屋』の原風景 - ジュリと辻文化と沖縄のアイデンティティ』の論稿をまとめた。ジュリの表象を追求する過程でバーン・スナイダーの小説と演劇 *The Teahouse of the August Moon* を対象化することに至り、それはさらに「歪められた沖縄像 『八月十五夜の茶屋』小説・演劇・映画の比較検証」(科研番号22520289)として2009年から2011年まで研究に取り組むことになった。3カ年の研究成果の発表として2012年3月ワシントン D.C. で開催された PCA/ACA Conference で *“Is Geisha Pan-Asian?: Cultural discrepancy seen in the production of The Teahouse of the August Moon in New York, Okinawa, and Tokyo”* の題で発表した。オリジナル小説に描写されたのは芸者ではなくジュリだということを強調した。ジュリは芸妓(芸者)と娼妓を兼ねた沖縄独特の名称である。

このように本研究は2004年以来対象化してきた沖縄の遊廓とジュリについて更にそ

の表象研究を深めることになった。

2. 研究の目的

(1) ジュリはズリとも呼ばれ、沖縄学の父・伊波普猷は『沖縄女性史』(大正8年初版)の中でジュリに尾類と当て字して「尾類の歴史」を書いている。ジュリの当て字は他に傾城、女郎、娼妓、妓女、芸妓、遊女、土妓など多様だ。尾類の当て字は近代以降に使用されている。ジュリは1672年に那覇に遊里が公設されて以降1879年に琉球王府が滅亡し、日本に併合された後も実在し1945年に終戦と共に遊郭諸共に沖縄から姿を消した女性たちである。ジュリの名称が遊廓と共に消えたのである。最も元ジュリだった女性たちが芸能者として戦後活躍していったのは事実である。本研究は、芥川賞作家大城立裕の小説「幻影の彼方」や新作組踊「花の幻」、また池上永一の『テンペスト』も含め、琉球王国時代から現代に至るジュリ(遊女)の表象をまとめることを目的とした。

(2) 自ずと琉球・沖縄独自(エスニック)の総合的美意識やアイデンティティ、背後に潜む政治・経済・社会・文化・国際関係も副次的にあぶり出されると考えた。大きな視点では多様に表象されるジュリと表象するジュリ、その両者を対象としてまとめることを目的とした。

(3) 一方この研究は、20世紀の終わりのおよそ10年間、人権意識をもったモダニストの女性たちによって阻止された「都市祭祀」としての辻街の「ジュリ馬」(旧二十日正月)の再興に(論理的に)寄与したい、という目的をもっている。

3. 研究の方法

(1) まず研究協力者を求めた。

多様な研究項目を遂行するために、1年目は沖縄関係資料アーカイブ『琉文21』を主催する新城栄徳氏と、琉球舞踊家&写真史研究所研究員仲嶺絵里奈氏に研究協力者になっていただいた。仲嶺氏を通して写真史家金子隆一氏から貴重なお話をうかがい、また映像に関しては、沖縄の映画研究者世良利和氏に映画史上貴重な事実を開示していただいた。2年目は、人間国宝照喜名朝一氏、琉球舞踊玉城流家元玉城秀子氏、そして沖縄県立芸術大学教員比嘉いずみ氏と新城亘氏に実演家の実際の経験から遊廓やジュリに関する貴重なお話を窺った。また比嘉氏、照喜名氏、玉城氏は実演をご披露して下さることになった。縮めの3年目は琉球古典音楽研究者&琉楽ボイストレイナーの仲村善信氏に研究協力者としてインタビューに同行していただき、また神奈川での調査をしていただいた。仲村氏は「女性歌者と琉球音楽」について79枚の論稿を完成させた。元琉球大学教授仲程昌徳氏に「沖縄の小説作品に登場してくるジュリ(尾類・遊女)たち」のテーマで論文を執筆していただいた。3年間、研究協力者の

皆さんのこれまでの優れたご実績とご尽力が本研究に「実り」をもたらしてくれた。

(2) 基本的な研究方法として十数名の方々からの聞き取り、映像の撮影や DVD 編集、図書館の貴重資料の撮影・編集などがある。同じく図書館で遊廓やジュリに関する資料の収集を続けた。3 年間で学生 6 人をアルバイトとして雇用し画像の編集、データ入力やテープ内容の文字化の補助にあたらせた。

(3) 英語論文の作成やフランス語からの翻訳など専門家の知識を仰いだ。

(4) 国際学会への研究発表と論文を纏めるにあたり海外の優れた Performing arts 研究者から適切なアドバイスを得た。

(5) 東京大学図書館や日本西洋古典学会の専門家の方から伊波普猷の Hetaire の引用に関して具体的な戦前の事例について適切な情報とアドバイスを得た。

4. 研究成果

(1) まず研究成果を社会に還元するために 3 年間、3 回のシンポジウムを沖縄県立博物館・美術館で開催した。その際、報告書を配布した。シンポジウムで回収したアンケートをデータ化して開示した。

第一回のシンポジウム 2014 年 3 月 8 日

(沖縄県立博物館・美術館 14:00~18:00)
報告書 Part I 《絵画、写真、芸能、映像に見るチーヅ(辻)ジュリ》

序文 研究課題概要

1. ウチナー芸能と絵画や写真の背景
新城栄徳
2. 三線(蛇皮線)を持つ女性たちの魅力
与那覇晶子
3. 「もの」としての「写真」へのアプローチ 戦前の琉球美人「ジュリ」の写真を読み解く
金子隆一
4. 「琉球美人」の表象 木村伊兵衛が撮影した辻の女性
仲嶺絵里奈
5. 近代沖縄の映像に見る辻遊廓と尾類(ジュリ)の表象
世良利和
劇団「うない」ハワイ文化交流公演の経緯と意義 (2013 年 10 月 23 日~29 日)ハワイ大学ワークショップ&ハワイ文化交流公演

第二回のシンポジウム 2015 年 3 月 10 日

(沖縄県立博物館・美術館 17:00~21:00)
報告書 Part II 《沖縄芸能に見る芸妓の表象/表象されたジュリ》

第一部 沖縄芸能にみる芸妓の表象

1. 基調講演「辻が支えた沖縄芸能」
宜保榮治郎
 2. 上間郁子と「炎の女」
玉城秀子
 3. 「金細工」の面白さ
照喜名朝一
- 第二部 芸能に表象されたジュリ
4. 「花風」の実演と研究発表
比嘉いずみ
 5. 春駒からジュリ馬へ
新城 亘
 6. 古典女踊の象徴は美らジュリ?

表象としての両性具有 与那覇晶子
尚、報告書に掲載した論文は新城と与那覇の二編である。会場で上間郁子主演の舞踊劇「炎の女」映像のダイジェスト版と戦前の「ジュリ馬」映像を紹介した。司会是我部大和氏、コメンテータは鈴木雅恵氏。十分時間が取れなかったのが惜しまれた。

第三回のシンポジウムは 2016 年 3 月 19 日

(沖縄県立博物館・美術館 9:30~17:30)
報告書 Part III 《文芸に表象されたジュリ/芸能者としてのジュリ》

第一部 講演会《文芸に表象されたジュリ》

1. 文芸に表象されたジュリ
仲程昌徳
 2. 韓国の妓生とその表象
川村 湊
- 第二部 歌・三線に優れた戦前の女性芸能者
3. 女性芸能者と琉球音楽
仲村善信
 4. 多嘉良カナを語る
多嘉良和枝
 5. 桜家音子を語る
瑞慶山和子

第三部 パネル・ディスカッション

長丁場だったが最後まで盛況だった。総合司会は比嘉悦子氏。

報告書は仲村氏の 79 枚の論稿を含み 222 ページに及んだ。幸い戦前から女性歌者として優れていた多嘉良カナと桜家音子の実の養女お二人によるお話と実演があり、沖縄女性史の中に遊廓の女性たちの芸能を明確に位置づけることができた。

私自身のこの間の研究の成果は原稿用紙でおよそ 420 枚に仕上げた博士論文「辻遊廓に見る近代沖縄芸能(史)研究 遊廓、ジュリ、芸能」である。本研究を掘り下げながら博論を纏めることができたことを日本学術振興会に感謝したい。近代以降「尾類」として侮蔑的表記をされてきた沖縄のジュリの 270 年に及ぶ歴史の中で、彼女たちが担ってきた芸能をジェンダー視点で捉え返すことにより、現在に続く沖縄の女性芸能者の水脈を明らかにすることができた。

達成目標として 5 つも項目を並べたが芸能史のテーマにおいて充実した。しかし文芸や衣装、歴史、美学、移動と異文化接触などにおいてはもっと掘り下げられるべき課題を残した。この研究が次のステップに寄与することができたら幸いである。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 4 件)

- (1) 与那覇晶子「遊廓の芸妓が継承した琉球箏曲」『沖縄の文化表象にみるジュリ(遊女)の諸相』Part III 《文芸に表象されたジュリ/芸能者としてのジュリ》(科研報告書)コザ印刷 (2016) 37-62(査読無)
- (2) 与那覇晶子「芸能者としてのジュリ 三絃(三味線、蛇皮線)を弾く遊廓の女性たち」『近現代演劇研究』第 5 号 (2015) 30-48(査読有)
- (3) 与那覇晶子「古典女踊の象徴は美らジュリ? - 表象としての両性具有」『沖縄の文

化表象にみるジュリ(遊女)の諸相』Part II《沖縄芸能に見る芸妓の表象/表象されたジュリ》(科研報告書)国際印刷(2015)28-46(査読無)

- (4) 与那覇晶子 「フェミニズム論から見る沖縄演劇 組踊「忠孝婦人」を中心に」『地域研究』(沖縄大学地域研究所紀要)第13号(2014)95-118(査読有)

[学会発表](計5件)

- (1) Shoko Yonaha *Do Surtitles of Traditional Okinawan Theatre Contribute to Language Revitalization in Okinawa in General?*
FEL XVIII Okinawa September 18th 2014
於・沖縄国際大学、沖縄
- (2) Shoko Yonaha *Gender Stratification in Okinawan Theatre with Focus on Ikuko Uema's Specific Identity*
IFTR/FIT 2014年7月28日~8月3日於・Warwick University, UK
- (3) Shoko Yonaha *Gender Politics and Ethnicity in Okinawan Theatre, with a Special Focus on Female Performers*
日本演劇学会 2014年6月14日 15日
於・摂南大学、大阪
- (4) Shoko Yonaha *The Modernization of Okinawan Theatre: Assimilation and Dissimilation to Japan -- Reconstruction of Okinawan Ethnicity and Identity--*
(2014.3.15-16 IFTR Asian Theater International Colloquium, at Osaka University) 大阪
- (5) 与那覇晶子 「女性だけの劇団『乙姫』の歌舞劇と初代団長上間郁子」
(2013年度日本演劇学会全国大会「『宝塚歌劇』と世界の音楽劇」6月21日-23日)於・共立女子大学、東京

[図書](計3件)

- (1) 与那覇晶子&仲村善信編集『沖縄の文化表象にみるジュリ(遊女)の諸相』Part III《文芸に表象されたジュリ/芸能者としてのジュリ》コザ印刷(2016)222頁
- (2) 与那覇晶子編集『沖縄の文化表象にみ

るジュリ(遊女)の諸相』Part II《沖縄芸能に見る芸妓の表象/表象されたジュリ》国際印刷(2015)53頁

- (3) 与那覇晶子編集『沖縄の文化表象にみるジュリ(遊女)の諸相』Part I《絵画、写真、芸能、映像に見るチーヅ(辻)ジュリ》コザ印刷(2014)54頁

ホームページ等

<http://blog.goo.ne.jp/nasaki78/c/647062fc41629e8e798d5151fbc1fc5>

6. 研究組織

- (1) 研究代表者
与那覇 晶子 (YONAHA SHOKO)
琉球大学・大学教育センター・非常勤講師
研究者番号: 30412860
- (2) 研究協力者
仲程昌徳 (NAKAHODO MASANORI)
元琉球大学教授
川村 湊 (KAWAMURA MINATO)
法政大学教授
鈴木雅恵 (SUZUKI MASAE)
京都産業大学教授
- 宜保榮治郎 (GIBO EIJIRO)
元国立劇場おきなわ常務理事
照喜名朝一 (TERUKINA CHOICHI)
人間国宝
玉城秀子 (TAMAGUSUKU HIDEKO)
琉球舞踊玉城流家元
- 新城 亘 (SHINJO WATARU)
琉球古典音楽研究家 Ph.D
仲村善信 (NAKAMURA YOSHINOBU)
琉球古典音楽研究家/琉楽ボイストレイ
ナー
多嘉良和枝 (TAKARA KAZUE)
琉球舞踊/舞踏家
瑞慶山和子 (ZUKEYAMA KAZUKO)
琉球舞踊家・紅型作家
比嘉いずみ (HIGA IZUMI)
沖縄県立芸術大学准教授
- 新城栄徳 (SHINJYO EITOKU)
アーカイブ「流文21」主催
世良利和 (SERA YOSHIKAZU)
沖縄映画研究者 Ph.D
- 仲嶺絵里奈 (NAKAMINE ERINA)
写真芸術学会会員
金子隆一 (KANEKO RYUICHI)
写真史家
- 吉田妙子 (YOSHIDA TAEKO)
「琉球歌劇保存会」副会長
中曽根律子 (NAKASONE RISTUKO)
「劇団うない」団長
仲里松子 (NAKAZATO MATSUKO)
「劇団うない」幹部

